

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】(中学校)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	神戸市立須佐野中学校					
学 年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	25
生徒数	88	94	90	3	275	

研究の概要

1. 研究主題

少人数指導などきめ細かな指導の推進
-------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1・2・3年生 数学 図形・グラフの作図や文章題など、生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。</li> <li>・ 1・2・3年生 英語 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 音読練習・発音練習など個々の練習が必要な教科であるため。</li> </ul>
---

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 少人数授業により、基礎・基本事項の定着や学習意欲の向上を図る。</p> <p>仮説 少人数授業により、効率的に基礎・基本事項の定着が図れる。</p> <p>研究内容・方法 全学年の数学と英語のすべての授業において、少人数授業を行い、効果的な少人数授業のあり方や学習集団の構成の仕方について探る。</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 少人数授業により、基礎・基本事項の定着や学習意欲の向上を図る。</p> <p>仮説 少人数授業により、効率的に基礎・基本事項の定着が図れる。</p> <p>研究内容・方法 全学年の数学と英語のすべての授業において、少人数授業あるいは同室複数指導を行い、効果的な少人数授業のあり方や学習集団の構成の仕方についてよりよい方法を探る。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 少人数授業により、基礎・基本事項の定着や学習意欲の向上を図る。</p> <p>仮説 少人数授業により、効率的に基礎・基本事項の定着が図れる。</p> <p>研究内容・方法 全学年の数学と英語のすべての授業において、少人数授業を行い、効果的な少人数授業のあり方や学習集団の構成の仕方について本校に最適な方法を探る。</p>
--------	---

### (3) 研究推進体制

学力向上フロンティアスクール推進委員会（校長・教頭・全体世話係・加配教員・各学年総務・学習指導部長・数学科教諭・英語科教諭）で掲げた大綱に則り、指導者間で連絡を密に取り合い、目標としている基礎・基本事項の定着や学習意欲の向上を図る。

#### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

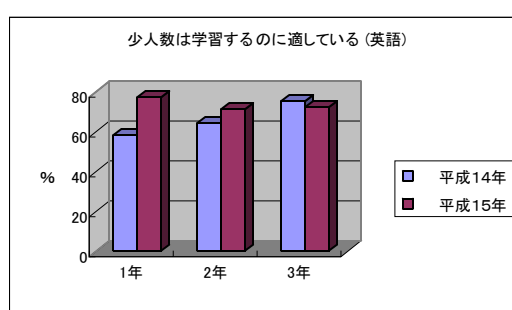
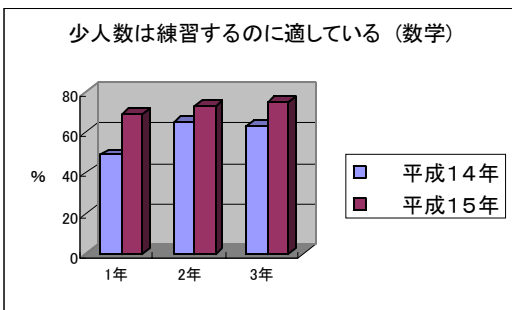
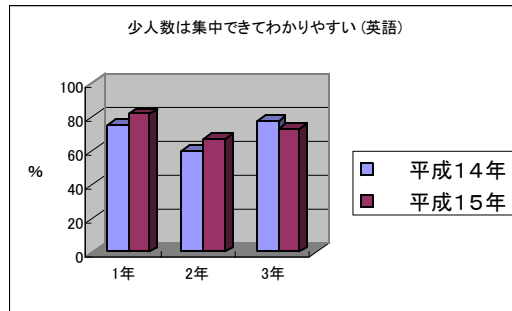
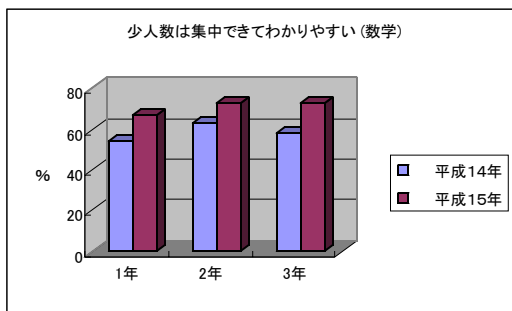
##### 1. 研究成果

###### 教師側

- ① 個々の生徒に目が届きやすく、学習状況を把握しやすい。
- ② 本校の少人数授業は一斉授業ではなく個別学習の形態をとっているので、生徒個々の学力に応じた問題を与えることができる。

###### 生徒側

- ① 分からないところはすぐに尋ね、疑問を解消できるので、生徒の理解の度合いが高まる。
- ② 授業の内容がよく分かるので、学習意欲がたかまる。



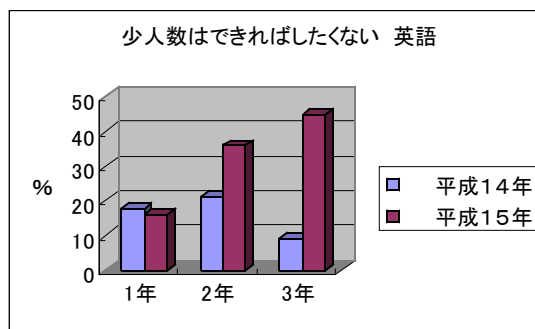
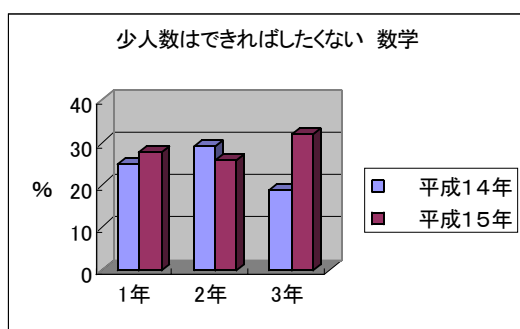
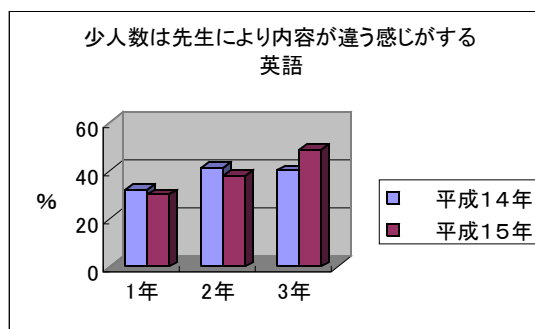
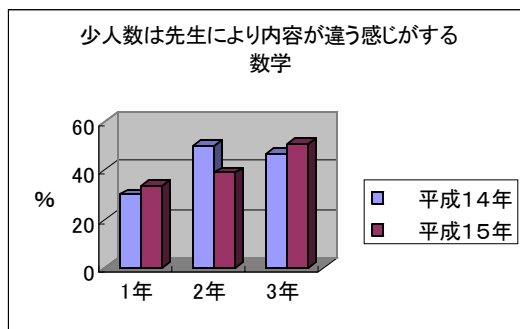
%は14・15年度実施のアンケート(5段階)のうち、そう思う・ややそう思うと答えた生徒の割合

##### 2. 今後の課題

- ① 少人数授業を実施してみると、どの授業においてもそれぞれの生徒に目が届きやすく、学習に対する集中力を高め、学力を定着させるのに役立っている。しかし、クラスによっては少人数授業よりも、同室複数授業の方が向いている場合もある。生徒の意欲を引き出し、学力をつけるために更により良い方法はないかと考えている。
- ② 本校実施のアンケートによると、生徒は少人数よりも同室複数指導を好む生徒が30~40%いる。これは、少人数でクラスが半分の人数になっても、生徒にとっては人数が少なくなるだけで、実際には40人学級の教室で授業を受

けているのと同じだと考えているようである。説明を聞き漏らしたり、疑問に思うことがあっても、教師が説明しているときには質問できない。その点同室複数授業だと、説明中でもその場でもう一人の先生に質問ができるという利点がある。

- ③ 小学校で基礎学力をつけてきた集団に対しては、均等に二分した少人数授業が効果的であろう。しかし、かけ算の九九や、二桁の繰り上がり（繰り下がり）の加減ができないような生徒がクラスに数名もいるような場合は、一定期間、習熟度別学級編成をしたり、その生徒たちを集めて少人数指導をするという方がよいのではないだろうか。



同じく 14・15 年度のアンケートより

### 学力把握のための学校としての取組

#### (1) 基礎学力の測定

本校では毎年12月に本校独自の「基礎学力テスト」を行っている。国語では漢字の読み書き、数学では計算について、小学校から中3までの内容を選定して、毎年共通の問題で測定を行ってきた。昨年度は教育課程の改訂に対応して、数学の問題を編集し直したことに加え、英語でも基礎的事項の測定ができるように各学年別に問題を作成して、12月に各学年で測定を行った。その結果を、以後の年度と比較することで学力の伸びを測定している。

#### (2) 評価

- ・それぞれの生徒の学習内容に対する理解の度合いを測るために、授業のはじめに一斉に小テストを行う。とくに2年の数学では同室で一方の教師が共通に理解すべきことを説明している間にもう一方の教師が採点・記帳を行い、その日の授業での個別指導に役立てる。

- ・それぞれの生徒の学習に対する意欲を確認し、より高めるための評価を、授業中の観察やノートの点検などで行う。

#### (3) アンケート

毎年アンケートを取って、少人数授業の本校独自の方法が生徒の要求にあっているか、また生徒の学習にどのような影響を与えているか分析している。

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成14年度

- ・神戸市内の中学校を対象に実践報告  
平成14年10月15日(火)神戸市総合教育センター
- ・「神戸市学力向上フロンティア事業の実践報告研究まとめ」の原稿作成
- ・全国からの視察に対応  
平成14年6月18日(火)高知市立愛宕中学校より来校  
平成15年2月14日(金)浜松市立蛸塚中学校より来校

平成15年度

- ・神戸市内の中学校を対象に実践報告  
平成16年1月26日(月)神戸市総合教育センター
- ・「神戸市学力向上フロンティア事業の実践報告研究まとめ」の原稿作成
- ・全国からの視察に対応  
平成15年6月25日(水)京都府城陽市立城陽中学校より4名来校  
6月 佐賀市立城西中学校より文書にて依頼、書類送付  
8月27日(水)北九州市 風師中学校より4名来校  
9月19日(金)山口県長門市立深川中学校より1名来校  
10月23日(木)浜松市立東陽中学校より1名来校  
11月20日(木)静岡市立美和中学校より1名来校  
12月 3日(水)神奈川県秦野市立西中学校より1名来校  
平成16年1月27日(火)香川県高瀬町立高瀬中学校より1名来校  
2月 3日(火)宮城県河南町立河南南中学校より1名来校  
2月 5日(木)静岡県田方郡函南町立東中学校より1名来校  
2月10日(火)山口県宇部市立小野中学校より1名来校  
2月19日(木)長崎県高来町立高来中学校より1名来校  
2月24日(火)宮崎県門川町立門川中学校より1名来校  
2月27日(金)石川県加賀市立橋立中学校より2名来校  
3月 2日(火)長崎県大村市立西大村中学校より1名来校  
3月 5日(金)宮崎県北浦町立三河内中学校より1名来校

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                  13～15学級                    16学級以上

【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他

【研究教科】               国語               社会               数学               理科  
                                  外国語               音楽               美術               技術・家庭  
                                  保健体育               その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      有              無